

昭和
三十五年
二月二十五日
招集

昭和三十五年二月二十五日招集
第二回市議会臨時会々議録

昭和三十五年館山市議令第二回臨時令之議録

一 昭和三十五年二月二十五日午後二時館山市議令第二回臨時令を館山市役所分館令議室に招集、

出席議員(三十四名)

一番	荻生田七郎	二番	黒川佐太郎
三番	長谷川光江	四番	加藤良太郎
五番	田中忠藏	六番	松本栄太郎
七番	山本昇	九番	志村信作
一〇番	後藤ゆき	一一番	田中禄郎
一二番	田村喜兵衛	一三番	吉田辰雄
一四番	北山茂雄	一五番	江田徳太郎
一六番	吉田勇治	一七番	川名房吉
一八番	安西政治	一九番	嶋貫壮作
二〇番	遠山ヨネ子	二一番	飯田義男

二三番

山口

康

二四番

佐野

信

二五番

脇田

順一

二六番

鈴木市藏

二七番

鈴木

孝

二八番

安沃德順

二九番

岩崎

靜敬

三〇番

石井孝

三一番

鈴木

彦太郎

三二番

小林寅之助

三三番

山口

幸三

三四番

三沢

節

三五番

法木

嗣郎

三六番

嶋田

繁

一欠席議員

なし

一法第二百三十一条による出席説明員

市

長

田村利男

助

役

小出武男

収入

役

完戸貴

總務課長

山口

実

建設課長

新井重助

商工水産課長

羽山房雄

厚生課長

渡辺茂

福祉事務所長

長谷川玄治

教育長

工榮和平

庶務課長

鶴沢貫賞

監査委員

関武天

一本議令人事務局長書記および職員

事務局長

高梨清一

書記

太田博雄

職員

兵孫恭一

同

山口晴之

昭和三十一年第二回館山市議令臨時令議事日程

昭和三十一年二月二十二日午後二時開議

日程第一 防犯協力金補助金増額方に関する陳情書

日程第二 商工全議所助成に関する陳情書
陳情書

報告第一号 特別会計設置に関する陳情書
陳情書

二号 簡易水道予算専決処分報告
陳情書

三号 一般会計追加予算専決処分報告

四号 波左間及び加賀名地区簡易水道工事請負契

約の締結に関する専決処分報告

日程第四 議案第八号 起債について

日程第五 九号 起債につき議決事項の変更について

日程第六 一〇号 土地の貸付につき議決事項の変更について

日程第七 一二号 休養施設工事請負契約の締結について

日程第八 一三号 昭和三十四年度館山市才入才出追加更正予算

一、本日の会議に付けた事件

議事日程と同じ

議長(萩生田七郎君) 本日のお席議員数三十四名、これより第二回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会のお席衆議院議員の爲田村市長、お出助役 完戸
収入役 山口課長、羽山課長、新井課長、長谷川少長、
渡辺課長、山谷課長、工藤教育長、鶴沢課長、岡監督
委員以上の出席を求めましたので報告いたします。
議案を配布いたします。

(議案配布)

議長(萩生田七郎君) 議案の配布はあります。

それでは今議案署名員の決定を行います。

お諮りいたします。従来例にならうとして

議長の指名により決定いたします。異議ありませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(荻生田七郎君)ご異議なしと認めます。

よって一〇番議員後藤由三君、三〇番議員石井孝君以上両君に決定いたします。ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(荻生田七郎君)ご異議なしと認めます。

よって決定いたしました。

今期の決定を行います。本臨時会の今期へ

つぎまして議令運営協議会のご意見は本日一日というところであります。

お帰りのいたします。今期は本日一日と定めさせていただきます。ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(荻生田七郎君)御異議なしと認めます。

よつて今期は一日と決定いたしました。

本日の議事はお手元に配布の日程表により行います。

日程第一所犯協カ今補助金増額方に関する陳情書

(書 記 朗 読)

所犯協カ今補助金増額方に関する陳情書

議長(萩生田七郎君) 本陳情書趣旨説明の爲紹介議員中

三一番鈴木義員の説明を求めます。

三一番鈴木茂太郎君の指名により説明申し上げます。

第一番の経過と申しましたよう昭和二十九年以前は

ことはちよつとわかりかねますが、当時市の補助

として十五万用ひておられたと聞いております。

二十九年の六月から接客業者、または犯罪の

起りやすの営業、またつかまえてやすの営業

等と三業者が特殊防犯を組織いたしました所
に協力することになり、そのでございます。

特殊防犯は全費一人三十円が今度一般防犯とな
ります。その一般防犯が市の補助により今日
まで行われてきたのであります。が市の経済情
勢、為に十五万の補助金が五万と減になり、その
であります。この特殊防犯の全費と昨年五

万の増額とによりまして四〇燈の防犯街燈と作
った。作ったのではなく、これは地元負担で作
たものに對する電燈料の天払い資金である。
五万円で付けたらうないようございまして、

本年の場合は果の連合防犯協力会を作ると
いう前提のもとに最初は予算を組んでござ
います。がそれではどうも本當の、その名目的でしようがな

いからというようなことで第ニ案としてで
たのが三十一万なれどという予算でござ
います。最初の予算が五万なれどです。
そういうことでいろいろ問題になりましたけ
れども結局第一圓です。で五万一千幾つとい
う予算になりました。して連合会を組織するこ
とにまゝなつてです。それによりますと、
釜山市の負担するのが人口割でいりますと
三万一千幾つとなつた。五万円補助して
いりますと三万幾つと少し残りがでるわけ
です。残額に更に三万円ばかり今の
方で加えたら二万幾つの際に街燈を作
りたい。こういう案でござりますが、現
在の予算は二十六万で市の補助が十
万今費としてあるのが十六万円、
二十六万円の金をも

って現在はや、てある。そういうことですうで
よろしくご審議をお願いします。

。大番（松本藤太郎君）防犯協力金のこと、非常ド平
素役員の方に対して敬意を表す一人でございます。
決してこの陳情書に異議はないのでござります。
この機、今にちよ、とお伺いしたいことは特殊の
方々でも、てあるか。それから一般と二つに現
在も分かれてあるのかどうか。それから鑑山
市全地域が同じような歩調で金費をとって
あるかどうか、これが二つ。

それから今一つは各町内、今に防犯協力金費
用として割当ばりてあるか。これはやはり第
二まで申し上げなようにや、てあるのかどうかとい
うことです。これを教えていたいたたい。

。三一番（鈴木康太郎君）「今金費また組織について
の責任ですが最初是一般防犯という名称じゃ
なかっただと思います。又防犯協力会という名
称だと思っています。特殊防犯がでましたために
一般防犯という名称にかえたのではないかと私
は想像してあります。市の補助によって代表
者がやっただけ。現在金費は一般防犯に
あつする一四業者で一人三十円で何とかもの
にしております。昨年までは一般防犯の金
費というものはなかっただけですがそのほか足
らない。市の補助ばかり仰ぐことは本意じゃ
ないということから割当によって各地区とも個人
割当ではなく地区割当によって負担をするよう
に申し合はれたのであります。こういうい

うことで区々に対することは大体区々でまてお
るんですがまだ区々ないところがあります
のでこの割当ということも防犯の方ではまだ
それまでいってありません。だから地元の割
当ということでも負担をしてもうてあります。

○三五番(脇田順一君)別に異議はございませんが一つ要
望がございます。防犯灯についてであります
従来のあれをみますと役員のでておられる部
落には非常な多くさん防犯灯がついておるの
であります。その役員の中でいない部落には
必要度が高いところにおいて防犯灯の配
慮がないようにみうけます。その際本當にお
やり下さるならばよくこの必要度をお調べ下
さいまして真に必要なところから電灯をつけて

下さるよう一つ要望しておきます。

○三一番(鈴木彦太郎君)スッ今防犯灯の必要性のないところにあるというようなで賃肉でございましてこれは各地区で何灯という割当によつてやつてありますので場合にによりまして地区によつて四灯より四灯の割当を取つた場合どこが重要であるかということとは各地区で送考してもらうことになつております。また地区によつて四灯で相当便利になる場合もあるしあるいはいさわたりないということもあると思います。足らないこととは確かに足りないのですから予算の許す範囲におさましてふやす場合において均等割りではなく重要性において作っていくといふことは考えられる。いろ／＼考えてよき方

向へしといひと思います。

〇三七番（鈴木孝君）この陳情書は私は採択していません。
 たいと思つてあります。がその前に一つ伺ひし
 いことがあります。二十九年に十五万、現在防
 犯街灯、どの位の数へ上つてあるか、私が市会に
 だしていいといひた三十年の年です。から移転的全
 費というあれで五万圓というふうな記憶してあ
 ります。がその時防犯協力金で今まで支払つてあ
 った防犯灯も市で支払つてある。市つまり防
 犯協力金でもちきれなくて市でも、て支払う。
 その後にも相当防犯灯でまてあると思つて
 あります。がこの灯数が現在どの位になつてあ
 る。どの部分が市で払つてあるか、そして何灯位
 が防犯協力金でお払いになつてあるか、これを一つ

お伺いしたいと思ひます。以上でございます。

○三番（鈴木彦太郎君）お答えいたします。

この防犯街灯の数は私もはつきりと記憶して
おりませんが三百何十灯ということはさつとお
ります。施設は市でも、て現在もやゝておしま
す。まうへ昨年確々四十灯市に施設してもら
つてお払いをしていたべくように考えないので
ございますが防犯の街灯費というものの、つ
かまえるところが無いというところが市の方の
意見なんです。それによつて今までの分は
市でも、ていたべくと、それから現在それから
の分は補助金によつてまかなえるだけ防犯協力
会の方でまかなう。こういうことで昨年は街
灯費として援助していただかどうか、それ

食 口 下 請 令
は在いますらんけれども現在全額足りないので
電灯料に入つてゐる。加えて市の方は二百何
十灯といふことを聞いております。

。九番(志村信作君)陳情書を拝見いたしました。
所記のことでありますから本當に結構なことでござ
います。今鈴木さんからのお話しとこの前の
建設課長のご説明では市で持つてゐるのは
二ツロ灯と承つております。所記の方はは
ちり^おわりにならないうことであります。今度

増額されるその分は四ツロ灯、三ツロ灯と申し
まして、もほんのわずかでさゝきになつたので
質同のようへ暗いところばまだ、いゝなりあ
ります。例へば船形小学校の正門のこぢう
へ手前「潮切山」の中間あたり、「柳塚」あつ周

辺も暗いです。

船形の所記協力今長に承っ

てみました。が船形の方面は今年は一灯位しか
あたらないうようなこととです。ほんのわ

ずかで全く焼石に水で氷の四〇灯という数字

をみると多いようです。が館山市にしてみら

ば果してどこにつけるかというような状態だ

と思います。もっとふやしすようにしたいらど

うかと思ひます。

○三番(鈴木彦太郎君) 今所記協力今の地已と申します

と新市。旧市全部で十ヶ所ばかりになるので

四灯ずつ平均割当をや。たものです。それに

よってあるところとあらないうところがある

いうことが考えられる。これは当然でございま

す。そういうわけですから相違いもわかって

いない証拠でいさわねってしまえば重責を
ろってつけられる。こういうふうな考えられ
るのです。現在ではこうして四〇灯に對して
も施設は地元負担であつて電灯料だけが入
る。こうなつておるのですからどの程度必要で
あるかといふことも今年は見通しがついてお
りません。けれども一応予算の問題も勘
案してやつていきたいと思います。

議長（萩生田七郎君）本陳情書を採択するこゝに異
議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（萩生田七郎君）異議なしと認めます。

よつて本陳情書は採択されました。

本陳情書は市長の手元まで送付いたします。

○議長（萩生田七郎君）次日日程第二商工今議所助成に關する
陳情書 朗読させます。

（書 記 朗 読）

商工今議所助成に關する陳情書

○議長（萩生田七郎君）本陳情書に關しましては紹介
議員もございません。直接商工今議所から提
出されたものであります。本陳情書に關して
ご意見等あればご発言願いたいと思ひます。
別に発言ございませんければ採択に移りたい
と思ひます。お諮りいたします。
本陳情書を採択することへご異議ございません
か。

（異議なしと呼ぶ者あり）

○議長（萩生田七郎君）ご異議なしと認めます。

よ、て本陳情書は採択されし。

本陳情書は市長の手元へ送付いたします。

議長(萩生田七郎君)次日程第三報告第一号乃至第
四号一括議題に供します。

(書 記 朗 読)

報告第一号 特別会計設置に関する専決処分報告

二号 簡易水道事業予算専決処分報告

三号 一般会計追加予算専決処分報告

四号 波左間及び加賀名地已簡易水道工事請負契

約へ締結に因する専決処分報告

。厚生課長(渡辺 茂君)報告第一号乃至第四号について

ご説明申し上げます。

専決処分三件は波左間及び加賀名地已の簡易

水道にかゝわるものでございます。この水道
は地元住民の要望に応えまして昭和三十四年
三月二十六日の議会で議案第三三号でこの工
事を実施するということと議決いたしてありま
してこれに基きまして千葉県に許可申請を
いたしまして去年の一月十日付で許可と相な
つたものでございます。起債国庫補助金
の見通りがありましてそれで昭和三十五
年を迎ええなわけでございます。主管課とい
ましてしても新年度の事業になるうではな
いかという見通しをしておりましたところ一月
二十六日に果から電話がありましてもういた
と。それで市長さんへ随行して参。そのでござ
います。がその時々国庫補助の目鼻がついて

から館山市ではこの事業をやるかやらないか、
 こういふお尋ねがあれ、そのごさいまするが市と
 いえましては地元住民から再三この事業
 をいつやるんだと矢のような催促をうけて
 おりましたところ地元の水道工事の積立金
 をや、てある者がいつになるかわからないう
 積立金とやめるという者もぼつーではじめ
 てきたのでどうしても早くや、てくれと地元
 の代表者から再三要望があれ、そのであります
 す。それで財源等につきましては地元の代議
 士さんまた地元選出の県会議員の方々のせ、か
 くのお骨折りもございまして、のでやることに
 踏み切、るのでございます。

以上のような次第で国庫補助の申請をする

ことに追込まれましてので手続をすること
とバリエーションがございます。

報告第一号の特別会計設置に関する専決専
断分でございますが、今申し上げました国
庫補助申請書に必要な予算でございます。

この予算は地方財政法第大条に政令で定める
公営企業についてはその経理は特別会計をも
つてこれを行う云々という規定がございます
のでその規定に基づいて設置する旨の専決処
分でございます。

報告第二号は、今の専決処分に関連いたし
ます予算で歳出の方から御説明申し上げま
す。簡易水道事業費は七百六十＝万百円でござい
ます。そのうち事務費は五十＝万円、これは

旅費、需用費、年度が終りに近くなりましたので、
 ざっと支出がございまして、そのよう
 に纏めました。次の事業費で七百十万円は

簡易水道新設の工事請負費でございす。

二款の予備費は十萬五千円、歳出合計七百七十
 二萬五千百円、歳入にまじりまして、国庫支出金
 が百六十万円、県支出金はまだございまして、ふり
 ませんので、とりあえず存目にしておきました。
 繰入金金の三百十二萬五千円は、うちほとんど一般
 計の繰入金で、説明申し上げますけれども、
 地元負担金の二百九十二萬五千円は、市の補助
 金で百二十万円、これを加えまして、繰入金として
 いたつくものでございす。

報告第三号について、説明申し上げます。

今報告第三号に繰入れまされ、賦課の措置でござ
います。 三百丁＝万月の内訳は交付税の二十
万月、地元負担金の＝百九丁＝万五千月で
ございます。

報告第四号は水道工事の請負契約の締結に
関する専決処分でございしますがこれは補助工
事が伴いますので年度内の完成が条件と
されております関係上一日も早く工事とし
なければ公費がでまさんので指名競争入札を
行。なわけでございます。 指名今社は日
本水道株式今社、川崎建設工業株式今社、
久保田水道株式今社、大島水道株式今社の四
社で二月十六日に入札を行ひまして日本水道
株式今社が五百六十七万八千円で落札いたし

ました。この今社と契約を締結いたすことの専
決処分でございます。以上でございます。

○三番（黒川佐太郎君）専決処分ですが第百七十九条
第一項というのはどうなっておりますか。なお私
の考としては専決処分というのは万やふを得ない
場合にすべきものであつてやはり議会を通じて
するのが建前じゃないかと思つたのです。その
理由が第一項は何になつてゐるか。期間の
問題であるか。あるいは期限の問題であるか
あるいは又議会がそれを決議しないか、それ
めであるか。私ちよつとわからないのでお聞
ぎします。

○厚生課長（渡辺茂君）地方自治法の百七十九条は
は「普通地方公共団体の議会の成立しないか、た

とき第百十三条但書の場合においてなお今
議を用くことができないとき普通地方公共団
体の長において議会を招集する暇がないと
認めるとき、又は議会において議決すべき事
件を議決しないとき、当該普通地方公共団体
の長はその議決すべき事件を処分することか
ができる。このようになる。従つて議
会を招集する暇がないと認めなければなら
ない。

○二番（黒川佐太郎君）暇がないということは私はい
えな いと思ふのです。が、いつも専決処分がで
てきますが専決処分というのは、そう軽々しく
にすべからざるではない。やはり議会尊重という
建前からすべからざる限り、議会を招集して議

今の議決を得ることが必要だと思ひます。

○助役（小出男君）　「今二番議員さんのご意見は
まことにも、ともと存じます。私どもといへ

しましても専決処分というのは今甲されような
ご趣旨に従つてやるべく考えております。

「本件につきまして二十三日に議今を招集不
しまし、直後に起りまし、問題であることが
主たる点で、まづ本件に關する内容につきま
しては、かつていくたびとなく設置の議決と予
算の規模について一応ご承認を願つておりま
すので、その内輪の操作にすぎないという關係
上、専決処分をしまつて、専決処分はなるべく
二番さんのおしやるような趣旨に従うのが建前
でございますが、本件につきましても、そのよう

な経緯もありましたので専決処分にしたわけでございますのでよろしくご承認をお願いいたします。

○ニ番(黒川佐太郎君)そうした場合、は百八十条によつて議決による指定もうけてある必要があると思います。なるべく将来専決処分というものは回避していただきたいという希望を申しあげまして了解いたします。

○議長(萩生田七郎君)お諮りいたします。報告第一号乃至第四号承認することへご同意の儀ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(萩生田七郎君)ご異議なしと認めます。よつて承認と決定いたしました。

。議長（荻生田七郎君）次日日程第四議案第八号。

（書レ 訓 読）

議案第八号 起債について

。総務課長（山口 実君）議案第八号起債についてご説明申しあげます。

本案は、今般承認いたしまして、波左間及び加賀名地区簡易水道工費の一部に充てるため、三百万円以内の起債とあとして、本事業を完成しようとするものでございます。要項は、レ示レた要項に従って支出しようとするものでございます。

。六番（松本 藤太郎君）この水道はもうすでにやるということばありますが、おるんです。が、レ、その内容、要するに金とあとに、なるその金が向

題になるわけですが、今までておりますのは起債の三百万ですが、今年度で完全にとれるという何かは、とりとしたものがあるのか。これを一つ伺いたい。それからなぜこういうことと利が申し上げられるかといふ、ますと方舎の起債などにも関連することですが、それはさておき、まして七百七十一万の水道に対して、国庫まかせ金が百六十万しかない。地え寄付に三百万近くもしている。それで、残りの三百二十万、月起債と合せて市が一応だそうと、このいう内容ですが、もし起債がうまくいかないと、ことになるとやはりそこに事業がやれるか、やれないかというところで、くると思う。そこで、先ほど二番議員もいふ、ましてが、急遽、こういふ

ことが一月の二十一日とか二月とかに果かういつて
 きたとい、ますけれどもどうして今になっ
 ていつてきたかということも疑問がでてくる
 わけでしてこれは三十五年度の国の予算
 をみると公営企業というものの対しては大
 幅な金を出すことになってある。やろうと
 思つたことも来年や、たおがこんな大きな
 負担を地元がし市がしなくともやれるがや
 らんということがでたのじゃないか、こつといつた
 ようなことも何か考えられる。一月二月遅れ
 ても、まだまだ以上何かさういふ、たような
 欠があるのではないか。計画してゐて急に
 んですか。ま、まだ議決されて異議がござい
 ませんから、い、んです。さういふ関係がある

のでこの起債について三百万円は果して内示
でもあったのか、どういうふうになつてゐるの
か、その実を一つお伺いしたいと思ひます。

○厚生課長（渡辺 茂君）お答え申し上げます。

国庫補助のおおきまれば起債のおもむきという
ことを当局の方でいつてゐるから国庫補助が
昨年の伊勢湾台風によりまして厚生省の
予算のほとんどが、あつたこの事業回復の方
にまわされたのでございます。そしてその補
助事業の入札に附しまして各県各市で余
に入札の差額を国へ補助事業ですの
で還
付いたします。その余、お金も水田先生
にお借しくださいまして私の方へまわし
て下さつたこと、それから同じく水田代議士

が自治方との折衝によりまして補助金であるならば起債もだすということといわれたところ、
 こういふことを果でいわれまして、
 の予算を計上しなわけでございます。

。六番(松本藤太郎君)これに關連して市長さんにお尋ねしたいと思うのですが、この種の事業に対してやはり地元負担というものを本当の受益者といえますか、住民に耳有、三分の一も近い負担金を求付という名においてさせてある。今後やっていくのかどうか。私はこういうふうなような事業に対しては果がやるべきでなく、国、県、市でやるべきだ。こういう公営事業に対してはどうしても住んでいる人に負担をかける。こゝろいうことがどうも何といえます。

が割勘予算とでもいいますか。ですが、このあたり
前のようなことになってきてある。で、それだけ
という方法はやめてもらいたいと思うの
が、市長さんのお考えを聞かせてもらいたい
と思います。

。市長(田村利男君)この問題につきましては、松本議員
のお考えも、ともてございしますが、市自体の水道
計画がまだ立っておらない事実でございしますが、
それにひきかえ、地元・加賀市・波左間地区の住
民がその目にも水が困るというような訴え。
また、簡易水道をやってくれ、ば、大体この予算
は大目に見てあるのですか、と減るかと思
います。が、地元負担金をだしますのでも、
補助金で起債の方の運動をしてもらいたい

こういうようなわけで果自体といえしまし
 ては簡易水道のあり方についてはこの方法と
 奨励してあります。なお細かくいえば三百万
 の~~水の料金~~の起債も三十五年間にわたって
 水道の水の料金の中からいさぐような
 仕組をしろという果の指令でもございます
 のでこういう方法をとるわけでもございま
 す。またこの加賀名地元の水道補助金に
 起債につきましても実際は去年の今時分に
 議会にだすべくともう去年はどうしても
 ころうの方の都合がつきませんのでお断り
 しておきます。それから去年の四月からの方
 加賀名波左間地元のどうしても作ってくれ
 というところを地元議員を通じて申し入れ

があり市といえましてはむしろ三十五年
からやろうかと考えておりました。が去年、おと
としのうのい、バ、りもあるし、この三十四年
度末におし迫、てしまふ専決処分までやっ
てこの仕事をやうづるを得なくな、たよう
な次第でございます。

六番（松本藤太郎君）地元がどうしてもや、てくれと
いうことで水に困、ておるからや、てんぞと
いうことです。が水のこと、いうのはど、ちか
といえ、ば困、ておるところを、こちらでみてそ
うして水の対策をしてやる。それかう水が
ないために産業がどうしてもでまないと
いうことも、館山市にはあるわけです。そういう
ところについてはやはり積極的に市がや、て

やる。地元が金と三分の一です。やらせてやる
 ということでなく、そういうふうな方向へ私は
 いっていったらいい。館山市のいろいろな事
 業をみますと、三分の一負担しなければ仕事
 をやってくやめ、このように考えられる。そ
 ういうことでなく、一つやっていったらいい。
 このように要望するわけですよ。

。市長(田村利男君)そのように今後気をつけます。
 。九番(志村信作君)起債を起します場合、たい
 て一年一割内ということとをきまうと申され
 ます。水道ごとくものは施設に非常な金がか
 かるものでございます。その反面、水道の
 利益は薄いものでなく、十年や十五年で
 は設備の回収は困難だと思っております。この

案ありは三百万円以内を借りるということ
とですが、ありは三百万円といえし、しても一
割でし、う三千万です、が十年たてば三百万円
です、ので元金の倍の金と払わなければい
けない、という、ことになつて、長い間、事業者
の負担がそれだけ多くなります、が、で、まる
ことなう、ば、大分位の見きでや、つて、いた、いま
い、と思ひます。適当な幅をもたせて、一割
とお、しゃ、つ、と思ひます、すけれども、一割の
利子と払、つて、水道施設は、なか、く、困難だ
と思ひます。

。総務課長（山口実君）こゝに示した借入率でござ
います、が、年一割以内とあります、が、大体起
債の場合には、大分五厘が普通でございます。

○二番(黒川佐太郎君起債の率の問題ですが今も
九番議員がいわれる通り非常に利益の薄
いものであるというので将来ありかた迷
惑で水道料を値上げしなければならな
いという声のないように市当局におかれ
てはできるだけ安い利子で借入れをする
というような配慮をしておきたい。

○九番(鴻貫壮作君関係)連してき、ますがちょっと
お尋ねいたします。水道料は幾らお取
りになる予算であるか、それから何石位水
を供給する計画か、それによって起債の償
還ということに大変関係をもつのでお尋ね
するわけですか。

○厚生課長(渡辺 茂君)三月の定例市会に条例とし

てです予定でございます。が水道料金は普通
通の家庭で十立方メートルまで三百円。管
業の場合には三百二十円。大体十立方メートル
と申しますれば、ドラム缶五十本。普通の家
庭で使える。そういう案を立て、あります。
。一九番（嶋貫）作君それで償還の方の計算はどう
なりますか。一つ聞いていただきます。

。厚生課長（渡辺）茂君今書类ととり寄せますので
お待ち下さい。

。議長（萩生田）七郎君しばらく休憩いたします。

三時五十分休憩

三時三十分再会

議長（萩生田七郎君）休憩前へ引続きまして開きます。
す。

今議を

二九番（嶋貫壮作君）和の質問と恐れおりますが、
準備がどうかと思われましますのでござります
で保留をしましていたしたいと思います。
皆さんのご了承を願います。

厚生課長（渡辺茂君）それでは正確な計算を
して後日報告いたします。

議長（萩生田七郎君）お諮りいたします。
日程第四議案第八号原案通り可決すること
に、ご異議ございませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（萩生田七郎君）異議なしと認めます。

よって議案第八号原案通り可決されました。

議長（薮生田七郎君）日程第五議案第九号

（書 記 朗 読）

議案第九号 起債につき議決事項の変更について
庶務課長（鶴沢貫賞君）議案第九号について説明を
いたします。

九重小学校の起債ですが当初二百万円として
申請し二百万円できておりました。その後
五十万円の追加ができるということになりま
したのでこの議案を提出したわけでござい
ます。
市長（田村利男君）五十万ふえたことはちよ
っと奇異に感じられますが自治庁なれば
地方課といえましては他市との関係上庁舎の起
債と計算通りくれる、くれなければいけな
いということでは庁舎の方はそれでござい

それで、すば五十万でも百万でも今後機会
ある毎に庁舎の起債に思わないう金を館山
へ今度五十万だけど上げらう。そのつわりで
余分な金をやっらんではなくて、庁舎の起債を五
十万ふやしたのだ。そういう気持ちでうけとって
もらいたいというところを言葉の上で申し込ん
で、まじしたのであり、ちやうどいしたわけ
です。

○一九番(嶋貫) 壮作君二百五十万円以内だとか、百万
円以内だとか、以内という言葉がつかってあり
ますが、予算を立てる場合に、年度をつける場
合には、以内という言葉もあるいは必要かも知
れませんが、予算が押みられて、幾ら借
りなければならぬということをはっきりし

ている場合には以内ということばは私に不合
理のように考えるがいかなものでございま
しょうか。

。取役へいざ武男君以内という言葉がいろいろのとき
ろにでて参ります。すべ以内というのは結局限
度をい承認願う意味でございまして例えば
この起債にいたしましてもあるいは一時借入
金にいたしまして全部以内という文書で
ござ承を得ているのが例でございます。と申し
ますのは金額というのはその時によつて幾分
の変更がございます。そのため議決の変更
をするときば非常に煩瑣です。で限度額
を抑えて承認していただくことでございま
して大蔵省から金額の指示があるのはいつ

事業をやる一週間、十日前でなければ正式の決定額というものは通知がないので予算を編成する当時は大体内示とかあるいは通牒によります仮定の金額というものになるわけであり、以内という限度額を抑えるのを例としております。

○一九番（嶋貫壮作君）よくわかりました。

仮定の場合には以内という言葉はい、と思ひます。が、きまつてしまつて以内ということは少しあつたかと思つたのです。それで、お尋ねされているのです。が、以内という言葉をお前にお使ひになつたことがございます。

以内という移動性があるで困る場合が起こりやしないかと思つたのです。それでお尋

ねするのです。

○助役（小出武男君）ご趣旨はよくわかるのです
が、一応その真は……。

○九番（嶋貫忠作君）わーればそれでいい、じゃあり

ませんか。私の方でもあななのご趣旨がわ

か、^{（という）}なのだし、あななの方でも私の趣旨がわ

か、^{（という）}なというのだからそれでいい、じゃあります

せんか（笑）

○議長（萩生田七郎君）お話しいたします。

議案第九号を原案通り可決することへご異

議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（萩生田七郎君）ご異議なしと認めます。

よって議案第九号原案通り決定いたします。

議長(荻生田七郎君) 日程第六議案第一〇号

(書 記 朗 読)

議案第一〇号 土地の貸付につき議決事項の変更について

○総務課長(山口 庚君) 議案第一〇号 土地貸付について

議決事項の変更について説明申し上げます。

略図をご覧願います。斜線のある部分は昭

和三十三年十一月二十三日の議決によりまして

東京のマグナ工業に貸付したのでございますが

その後マグナ工業の方でその時の会社の都合

によりまして使用しない旨を市に伝えて

したので昨年七月十五日契約を解除して

本年に至ったのでございます。――

明治大学の方から夏季水泳場宿舎を増築

するためになんとしてこの斜線の土地を貸

していったらいいと市の方へ申しでが、あつたので市の方といえまして、現在この土地は雑種地で空地になってゐる關係上明治大学の敷地と隣接してあり明治大学に貸す方法が最もよい方法と考へ、今圓々の契約によりまして明治大学にこの土地を貸付しようとするものでございます。

○二 飯田義男君 異議はないのですけれども、先般建設委員会をやつた時、那百海岸の現地を見に参りまして、非常な海岸に通ずる道路の設定、そういう一面について土地を貸したり家を建てたりする時、しっかりとしな計画をしてないともすると道路が曲つたりするところになりかねないので、この際市に要望しておきたいのですが、今後寮その他いろいろな

建物に相当建つてくると思ひます。また市
 有地もこれらに貸付を行う場合がしばしば
 あると思ひますけれども建物と建てる場
 合は将来道路を作る。その他の状況を勘案
 して貸付を同じようにしてゐるまいとい
 うことが一つ。なおその貸付をするところ
 に何坪の建物と建てるかを一応伺いたいと思
 います。建物は大体敷地の三分の一というこ
 とが限度になつてゐるのでございしますがそ
 うじゃなく敷地が建物の三倍以上を越して
 はならないといふことをちよつと書いてあり
 ますけれども、では三百坪ですけれどもこれ
 十坪や十五坪の建物と建てるために三百坪
 貸すことは大事な土地をもち、ないといふ

ことも考えられます。三百坪ほどの位お建てになるか、そういう、たことをお伺いしたいと思ひます。

○総務課長(山口実君) この三百坪の土地内に建てる建物の坪数はまだ詳細な数字を承っておりません。たゞ六ヶ月以内に建物を建てない場合には解約する旨を契約したいと思うのであります。

○三番(飯田義男君) 聞いていないとすればやむを得ないのですが将来こういう土地を賃す場合一町歩も二町歩も賃して建物は二百坪だ、大というかとがあり得るかもしれませんのでどの位のものを建てるか良く調査してお賃しするようにお願ひいたします。

○九番(志村信作君) この議案では賃付の期日は書い

ておりますが、期間はありますせんが、幾うです
か。そういうのは期間がやはりなければいか
ぬと思います。

。総務課長（山） 実君、貸付料のところは向う一ヶ年、今
度契約の場合にさらに付けると思っています。

。九番（志村信作君） 今のお話してありますがあま
り短かすぎませんか。学校の方の目的が寮で
あるから、一りにバラック建にしまして、一
ヶ年の期間ということは納得でございますが、
学校も市ももう少し期間はあるべきだと思
います。

。助役（小生） 武男君、一応向う一ヶ年の契約にしたいと思
うのですが、しかし土地に建物を建てるので、そ
う都度更進していく。こゝで二十年とか三十年

ということではないでございと思っております。

○一番（飯田義男君）関連性がありますので一応市長さんのご意見を承わりたいと思うのです。那古から船形、館山に通ずる海岸をずっと見ますといろくろと寮とか臨時的な建物が多いように見受けております。それがわづら夏場の一ヶ月、二ヶ月しか入っていないという建物が非常に多いのであります。はなしてこういう状態が将来の館山市の観光発展のために大きなプラスになるか。最近非常に観光ブームのつりまして館山市もクローズアップして参りました。そろそろ海岸地帯が重要な地味になりはしないかと考えましてこれを計画的に発展させるためにどのように現

在余、てある土地を賃したり売、たり建てたりする
 必要がある。いわゆる都市計画と申しま
 す。観光計画と申します。そうい、たことを
 考えてい、なければならぬ。じやないかと思
 うのです。市長さん将来に向、てどのような考
 えをしておられるか。——承わりたいと思ひます。
 市長（田村利男君）年に一月し、こゝない学校に賃すと
 いふ、うな賃向、のようございしますが、それは
 結果論でありまして、年一月住、る人も實際は
 こゝない、かう何とか寮だけでも誘致したいと
 いふのが、今、から七八年前の情勢でございま
 して、今センターができましたので、あ、いう損
 をするのは邪魔だ、というご意見一応考、えら
 れますが、今までの計画をみまして、明治大学

とか南成中学等はあれでいい、と私は考えて
おる次第でございます。

さて新しい橋がござりまして北条地区にござり
まじりた場合また館山地にござりまじりた場合
固定公園部のいづかの何かがありまして海
岸から北の方では道路から下の方ではま
たない家を建て、風致を損ずることは好
ましくないと、いうのがお役所関係の言分では
ございます。市といえし、ましてはなほよく宿屋
とか、あるいは観光施設とかを役所と良く連絡
をとりながら、今後は量より質でフルに展開し
ていきたい。こう考えております。

議長（萩生田七郎君）お諮りいたします。

議案第一〇号原案通り決定するにとり、

議さしていませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(萩生田七郎君)は異議なしと認めます。

よって議案第一〇号原案通り決定いたします。

議長(萩生田七郎君)は次日程の議案第一一号

(書 記 朗 読)

議案第一一号 休養施設工事請負契約の締結について

建設課長(新井重助君)は議案第一一号について説明申し上げります。

館山市の休養施設工事請負契約の締結ですが本館建築物の内容から申し上げります。

建坪二百七十五坪、二階建て一階には十二畳、十八畳、四十五畳の室を三つ作りまして二階

に大畳一間八畳三間 十畳三間でございます。
そのほか、別棟として浴場施設が十八坪でこれ
もいろいろの關係上二階ベレ一階が鉄筋コンクリ
ート作り、二階が木造で鉄筋コンクリートの中
にボイラ室と洗濯室とシャワー室等を設け
二階が男女浴室でそのわきに脱衣所を二ヶ所
設け、これに十八坪でございます。それから
本館と浴場に通じます。す渡り廊下が三坪合計
二百七十五坪と建物を建てようとするもので
工事の入札に當り業者を五者選定しました。
東京の戸田建設、K、K、館山の館山建設業協
同組合、東京の日産建設、K、K、千葉市の旭
建設、K、K、天島建設、K、K、この五社を選定し
たりして昨日二月二十四日午後二時に市長室

において入札しました結果一千四百四十万円で館山建設業協同組合が落札いたしましたので本工事を急速に完成させるために館山建設業組合と請負と締結して工事を完成いたしましたと思います。

○二番(黒川)佐太郎君これから着工と竣工の期日。
○建設課長(新井)重助君約二百七十五坪でございますので相場の工費を要します。^{起債}
関係はございますので一応三月三十一日という期間でございます。

○九番(嶋)貫中作君ちょっとわからないうちからお尋ねするのであります。館山建設業協同組合理事長(山崎)作太とあります。これは法人組織になっているのでございますか。それとも

普通の寄り合い世帯になつておるのです。
その奥について伺ひます。

建設課長(新井重助君)これは法人組織になつて
おりまして出資金が二百万円でございます。
館山市内の有力な業者が集まりましてこれ
を結成してございます。

〇二番(飯田義男君)これだけの工事でありますの
で機会をみて大体どんな設計、どんな要領の
ものができるか。建設課の方で印刷物とあと
でいらいますか。

建設課長(新井重助君)それは縮尺を細みましておエゲ
いらします。原図はここにございますので。

〇議長(萩生田七郎君)お諮りいたします。

議案第一号 原案通り可決することに決めます。

ございますか。

(黒藏なしと呼ぶ者あり)

○議長(萩生田七郎君) 黒藏なしと認めます。

よって議案第一号 原案通り可決されました。

○議長(萩生田七郎君) 次日程第八議案第一二号

(書 記 朗 読)

議案第一二号 昭和三十四年度館山市スハス生追加更正予算
。総務課長(山口 実君) 例へよりまして文書より説明
申し上げます。

第一款市役所費六万八千円追加をお願いいた
しました。その内訳は需要費二万三千円。諸
費四万五千円でございます。需要費の電
気料の不足分一万七千円。通信運搬費の六千

月でございます。

次に諸費の報酬のうちで連絡員の地已に已
長割の敷かれために連絡員の報酬を四千
三千月更正いたしましたして市の伝達業務委
託金に組み換えなものです。職員福利
厚生委託金四千五百月は市の女子職員の作
業衣四十枚を補助しようとするものです。

次に消防費 第一項消防本部費でも、ての六
千月は消防委員会の食料費ですでになく
なっているので今回消防委員会を南催する
に必要な食料費を計上いたします。消防署
費の四千月は消防法の一部改正になつたために
危険物取締関係の説明会が国または県にお
いてしばしば行われたのでその費用に四千

用をお願いしようとするものでございます。
これは長須賀の測候所構内へ二百石入りの貯
水池一、船形川名岡へ二百石入りの貯水池一
この二個を予定したのでございます。次に
可搬動力ポンプ更正三十九万月は当初消防団
才五分団、島ヶ原の三輪車可搬動力ポンプを
購入する予定でしたが、団の都合により延期
することになったのでこれを更正財源と
いたしたのでございます。

。建設課長（新）井重助君四款土木費について申し上げ
ます。

道路橋梁費二十四万月は布良港線の燈台入
口の道路をなおすために要する費用でござ
います。この二十四万月には布良の財産を処分

した金が集まりましたのでそれによりまして
して道路の補修をいたす考えで計上した次
オでございます。

の庶務課長（鶴沢貫資君）オ七款教育費におきまし
て八万二千円を追加いたしました。

教育委員会費の通勤手当五千円 賃金で
三千五百円不足したので、吏員給給与からそれ
で更正したわけでござります。

小学校費におきまして扶養手当で九千八
百円不足しましたので給与から給与より
更正いたしました。借料及び損料で三千
円は自動車借上料でござります。これは国
庫補助金で僻地学校への交通費として
補助になりますのでそれと文へに細んだ

わけておきます。

扶助費で要保護及び

準要保護児童医療費が千五百円不足い

たりますので更正、財源から更正しました。

。 営繕費の手数料が千円不足いたしましたので

債金から更正しました。

中学校費で扶助費、要保護及び準要保護

生徒の医療費と修学旅行費がそれぞれ不

足したので追加いたしました。財源はや

はり更正でまわりました。

高等学校費の印刷製本費二千三百円、光

熱水費七千円不足いたしましたのでそれを

れほかの費目から更正してわけです。

公民館費も看守人雇工料で六千五百円

電気料三百円必要なので建物の修繕料か

う更正いたしました。負担金補助及び六付金
で七万九千円、これは新生活運動推進補助
金として県の補助金に参りましたのでそれ
をそのまゝ又出一つ、てきにわけです。これ
は婦人会の結婚簡素化に因する衣裳購入
費としての補助金でございます。

図書館費で賃金で九百円 電気料で九百円
不足しましたので印刷製本費のう更正し
ました。以上でございます。

。福祉事務所長(長谷川宏治君)社会及び労働施設費
について説明申し上げます。

私どもの課としては最終の追加更正という
計画で各項目にわたりましたが二百八十七
万三千百円の追加でございます。

生活保護費＝百六十五万円は昨年の十月に
 医療費が約一四％程度値上りがあり現在の
 支出額からみまして不足額を百六十七万
 円 同いく本年の四月に生活扶助の基準が
 上りましてこれは約一〇％上っておりますが
 本予算編成後でございましてので生活扶助
 費で九十八万円足りなくなる予定でございま
 すので追加をいたしました。

三項児童福祉として二十万円も本年四月に
 基準改定がございまして各施設に委託を
 しております児童の措置費でございます。
 この両者はそれぞれ国庫補助が参っておりま
 すので大へに繰り込んでおります。

四、保育所費は目内の流用で追加額はござい

ません。需要費として賃金で一万五千元、
消耗品で保育所の教材費で一万三千元、十五
の光熱水費電気料として千円、一九の手教
料ふん尿汲取手数料＝千円、修繕料でガラ
スの修理代三千元、財源としては一二の燃
料費からそれぞれ一万五千元、一万九千元
を更正して六項の福祉事務所費で三千四
百円の追加でございます。旅費で一万円は
生活保護係が特別な資格を要しますので本
年一名その認定講習に出席とさせていただきます
費の不足額でございます。それらから普通旅
費の見込額が四千八百円でございます。
需用費で六千六百円の更正減でございます
す。更正しましたものは備品の一万八千元

新しい自転車を購入する予定でございましたが中古の自転車に切り換えましたために一万八千月の財源がうまわれましたのでそれだけの報償費燃料費印刷製本費借地及び損料で不足額を追加いたしました。

七項福祉事業諸費におきまして一万二千月の追加でございます。このうち二千九百二十月を更正いたしました。諸手当三千

二百月は例年行います敬老会関係の費用でございまして日曜のため超過勤務手当を支払うので旅費が残りましてので更正いたしました。三二の負担金補助及び交付金として一万二千月は市の養老年金不足額一人分でございます。現在百五十名の予算で行

いまだにが年度末までにあと一〇人程度ふ
える予想で一万二千円計上したわけです。
入の住宅費として五千円の追加でございます。
このうち備品費で二千二百円を更正し消耗
品の文具費として二百円、光熱水費として
電気料の不足額七千円を追加しまして
差引き八項で五千円、追加でございます。
一、二の国民年金事務取扱費として二千五
百円の追加でございます。現在まで国民
年金関係は約二千七百通送りまして決定
になつたものの約二千六百件でございます
が大抵が老人なのでお張しまして書類作製
あるいは証書の交付等おかけていく関係で旅
費がたりなくなりましてので四千二百円。

需要費に臨時用人雇上料の不足千円とそれ
れ追加いたしました印刷費 通信運
搬費のウ付記の金額を更正し 財産といまし
ました。

総務課長山口 実君 一款財産費について説明
申し上げます。

これは積立金五十一万一千四百円で内訳は里見
城復元資金積立金五十万 財政調整積立金一
万一千四百円の合計でございます。

次に一五款諸支出金五十八万八千六百円につ
いて説明申し上げます。市振興費五万円の
福祉事務所が今回果税事務所と警署察
の間に約百五十万の予算をもちまして
三十坪の建物を建設することになりこれ

に對する地元負担金が約五十万あるものでございます。その五十万のうち本市に約五十万の寄付を仰いでいただくでございます。

公益質屋今計繰出金五十三万八千六百円は不足額を補うために一般今計からの支出額でございます。

以上を合計三億九千九百四十七万三千九百十九円。

次に次へに入ります。五款分担金及び負担金の減額五十六万八千円は保育児童措置費が昨年八月改定になり更正しようとするものでございます。

七款国庫支出金は歳出で説明されました生活保護法の改定によりまして約二百十一万

児童保護費負担金において十六万月補助金に参るもので合計二百二十八万七千七百二十五月計となりました。

二項国庫補助金七千七百二十五月は一月社会及び労働施設費補助金の四千七百二十五月でございます。これは社会保障基準統計調査に對します本市に於て補助金です。四目教育補助金三千月、畑小学校僻地保健管理費に参るものでございます。

八款果支出金は今回七万九千月の追加は教育補助金といえまして婦人会館補助金として七万九千月本市に参るものでございます。

次に一、款雑収入六万四千三百七十五月でございますがこれは児童措置費負担金の

前年度精算分が本年度へ合計に入つてきた
ので過年度支出金として六万四千三百七
十五円計をいれしました。

次に市債は今回二百五十万追加を仰いだの
は教育費の五十万それと先般館山港が
負担金において仰いだ二百万の追加額でこ
ごいます。

文入 ~~合計~~ 三億九千五百十一万八千十九円
追加額四百三十六万三千百円 合計三億九
千九百四十七万三千九百十九円 歳入歳出
差引き零でございます。

議長(萩生田七郎君)以上で説明は終了しました。
今当局から訂正の申し出がありました。
文書の十一款財産費で二項の積立金五十一万

一千四百月の付記に里見山居城復元資金積立
金五十万月、もう一つ財政調整積立金一万一
千四百月、かように訂正の申し入れがありまし
たので訂正を願います。以上で説明を終ります
し、が質疑に入ります。

○七番(山本昇君)歳出の部につきまして二、三お
尋ねいたします。

第一番目に教育費、関係オミ款の小学校
費、第四款の中学校で更正されました職
員給与、小学校費で七千六百月、中学校費
で同じく職員給与で二千二百月更正されてお
る。これはもうすでに本年もあと一ヶ月で
終りになると思いますけれども、こうしな
とが職員給与でされるのか。もうすでにおし

まいにちなっているのか、わらず更正される
ことは要するにこういふものをおわらひ
め予定して取っておいたかどうか。こうい
ふことを一々教えていた方がいいと思ひます。
次に住宅費の問題、社令及び労働施設費の
光熱水費で七千円、厚生寮の電気料とい
うこととで計とされまして、厚生寮とい
うのはいわゆる元の洲の海航空隊であるかど
うか、そうだとするとそれに対して何か危険
な建物であつて直ちにあそこに入っている人
を立ち退いて云々といふことも新聞紙上でい
われておりますが、こういふことを厚生寮に
するものであるかどうか、そうだとするな
らば危険な状態で直ちにあそこを引上げ

させなければならぬといわれておりますが
その状況またそうだとするならば光熱水
費がすぐにも必要じゃないじゃないかと
考えられますがこの点についてはどう
いうお考えをもちておりますか。

次に積立金の問題であります。これに今訂正
されました里見の居城復元積立金五十万
ということがあります。もうすでにこの復元にお
きまして市といえまして相当額の積立を
されておるわけでありすが今までどの位
積立てたかということが一ツ、さらに最近城山
の復元問題につきいろいろなことが世評に伝わ
っております。いわゆる民間資本による資
本家の進出の復元ということもいわれて

おるしあるいはまたそうでなく城ではなく別
な視座に立つてあそびを開発したらどうかと
いう／＼いわれておりますがそのことにつ
きまして市長さんどのように考えておられ
るか、もし本当に市が中心となりまして市民
の了解を得てやると、または特定の寄付
をいただいてやる。あくまで市が主催で
あるならば積立金も必要であろうと思ひ
ますが資本家の進出によりまして開発さ
れるというならばあえて市民の了解を
得ますところの市費の積立も必要ないじ
やないかというところも考えられますがこの点
につきまして市長さんどのような考えをも
つておられるか、一つお答え願いたいと思ひます。

庶務課長(鶴沢貫賞君)教育費についてお説なつて
ます。

小学校、中学校の給料でございます。これは
便丁の給料でございます。これの余りました
理由は秘書課と協議しまして便丁の昇
給につきました。これは比較的上の高額とい
います。給料をよけ取っている者の昇給
を三ヶ月程度ストットした、ゆゑに浮いたもの
でそれと新旧職員の変更によりましてふえ
ました扶養手当のふり持つていってわけ
でございます。

福祉事務所長(長谷川広治君)住宅についてお答え申し
上げます。

室名にあります。厚生寮の電気料は個人の照

明用にする電気料でなく、あそこは二階でして非常に一階二階とも元の軍の建物でございますので光線へエ合バ非常に悪く昼間でも電氣をつけなければわかんない。こういうこととでそれに使う電気料でございます。

なお新南等にもでておりますが、厚生寮の建物の廃止でございます。あの建物は国の建物としてこれは全国的な、いう寮に対する計画だそうですが、それを解消する、という強い意見でございます。私どもは、それあれを管理としてある、こういうことでございす。一応国果の意見は各受益者に伝えるのでございしますが、私どもの方で追おしを策するとかあるいはどうしてあげてもらい

たいとういうような気持はもっておりませ
んで皇等がみつかりましてでていく者
に対しては気持よく送る。どうしてもな
い者にはやむを得ないじやないか。こう
考えておりますので今回の電気料につい
てはご了承願います。

市長(田村利男君)お答えいたします。

城山城建設の費用としては過去におきま
して百五十万。今回と合計して二百万。積
み立てたことになつたのでございます。

市といえましてはあくまで館山市民多数
の心のふるさとであります。館山城を何らか
の形で建てるという線はまえてあります
人。従いまして市は独自の立場でもって二

百方、もっと計工することによりさうに市
民の淨賦を集めてあそこに城を作ると
いうことにしたのであります。最近二
三の業者から直接市長の方に觀念面から
今社が城を作りたいというような申し出
があつたことは事實でございます。従いま
して市としてはいろいろ隘路、いろい
ろな難関があることは覺悟の上ですがもし
もそうしたら今社、觀念今社によつて作っ
てくれ、ばこの上なことでございます。
があくまで市の標榜といわれる城らし
い城というものを望んでゐるわけではな
い。ましてもしもそういう線に沿わない城だ
たらお断りしようかと考へてゐるわけでは
ない。

し、観光公社のい、ますことはあくまで城
は城として作りさらにその建設、市の設備
等を含めたもので娯楽、観光公社の用に
供したいといつておりましてまだこの問題
は議今に報告する段階になつておりません
ので、今こゝで発表はしないかえすか
もし市の希望通りの城を作りまして市が喜
ぶような観光施設を作つて下さる公社があ
つた場合にはこの二百万は他の予算に廻
み換えて市民福祉のために使ふ覚悟でご
ざいます。

九番(志村信作君)今城山の肉題についていろ／＼と論
議がございまして、確か三十二年の五、六月頃
の広報だと思ひますが、そゝに市長さんのお

話として、のってあつたことを記憶してあり
ます。が競輪の金が今一二年すれば^{学校}校のすに
つぎ込んでおつたのが学校のすが完備する
というよまなことができておつたかうそれと
率直に私は読んだのです。が学校の校舎そ
の他の設備が競輪の大部分の金とつて
してあるな、という感じがいたしましたこと
と学校が一年のうち大体が完備するとい
うことになれば、あるいは全面的に競輪
の金の金が城のすにつままれるのではな
いかとそう感じておつたのです。がそうなつて
くると一般の寄付もいらないのではないかと
考えられますので申し上げます。

市長(田村利男君)確かにその当時競輪の金の流用が

館山市議会

あるということをお願い。記憶がございます。

そしてまた市としては現在城を建てる意思は
変えておりません。従いまして苦しい中から
三十万でも五十万でも積立てる誠意を示し
ているわけがこの金をもとにして将来観光
会社が館山市の手をつけない場合には何と
かしてこの金を確保いたしまして拡大する
ことによつて城を作りなにと考えております。
また市の希望するような城を観光会社が
建て、くれるならばあえて二百万円の貴重
な金を城に使わなくてもほかの方面に回して
まい、のではないかと思つております。
○大番松本藤太郎君 館山城について数年来
いろいろとするようにつゞておるのですが特に

最近館山城期成同盟会。昨年の暮に発足
したわけでした。会場は市長議長、副議長さん
館山市の有志とい、ますか。その方に関係され
るようになり、あるいは課長さん方を集めてそこ
で期成会の発会式をや、ておられる。その後
こういうことで一ぺんも会合してない。今長
さんおだれにな、たかも正式に開いてない。
暮であるから仕方ない、正月にな、たらやり
ます。正月もすぎた。一月の末には必ずやり
たいというお話しであ、たがやらない。二月も
すでに終りにな、てある。そういうようなこと
をや、て会を作、ておきなから今、市長さんの
お話しですと事業家があ、て市の思うよう
なとい、ますけれども市の思うような、市長

さんどういふふうに思っているか。もう
うからぬ仕事は事業家はやらない。こゝろ
もうけようとしてそうはいかない。そうい
うのも今こゝろはそういわなくてはいい
からい。そのかもしれません。期成会とい
うものを作っておきなばら一べんの今合
ない。今則ち大体内定しておきなばら
ない。今議を一べんもしないで今やうな
発言をされることは私は非常に市長さん
の疑わざるを得ない。しかも最初には郷
土資料館としていろいろな文化財の指定
を受けておる。しかもその文化財を入れ
るところの建物がない。結局これは皆中
央なり県のカドで、いかれておるので
館山市として文化財の次資料

館をほしいと市民からでてある。それを兼ねたものを一つ作ろうということが大体結論づけられてゐるはずなんです。そうなつてゐるのですよ。その今合を一本もやらずにあてになうないこゝちの都合のよいものを建てるわけがない。そういう事業家にやらせてほしい、という考え方は私にはちよつと解せない。個人としてもそれは許されるべきことじゃない。特に最近の観光事業審議会というものを作つてある。対外的な政治的面で市長さんばかりかゝつてきた時の「隠れ蓑」としての観光審議会を作つたのではないかと考へられる。そういうことになる。でありますからいやしくも公的としてのこの市の議会の中で作られてゐる。議会でもつて

市長が答弁されることば、そう軽々にしてひるがえされては困る。私は信頼してあんなの答弁を聞くわけにはいかなう。そういう真について今申しエゲたことはとりけしていた。い。一ぺん期成会をや、てその時々は、うりあなはあ、しゃって変更するならばするよ。うなその機軸を経てそういうふうに変、たのならばい、んです。ですからそういうことでは私は了解できない。この点についてはっきり答弁願いたい。

○市長(田村利男君)期成同盟会を作ったとか、今長がたま、たというところも聞いております。しかしな、早く今が、今則ちできることを希望する意味にあきまして、松本議員と市長とは

同じ意見でございます。

六番（松本藤太郎君）何だかちょっと私にはわからないのです。期成会の会則もできておる。今則に従って会長も一応市長さんも一任しますという事になった。市長さん、議長さんのお話しで私は議長さんから聞いておる。すぐに期成会はやりますという事を暮からいっておる。議長さんを引きだして申しわけありませんが、議長さんが私にいておる。館山市の市政について一番最高の責任者である市長さんにしてもらい、いふことが変わった。では私は今後議員として、にお席してあるたのお話しを聞くわけにはいかなかった。信頼がなくなつた。でありますので今

市長さんがおっしゃることは取り消していただきたい。これといっておろのです。

議長（萩生田七郎君）暫時休憩いたします。

四時三十分休憩

四時三十五分再開

議長（萩生田七郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

市長（田村利男君）市といえましてはあくまで城を

作る意思を投げません。そのため少い額で

はありますが今月五千万円計上をわけています。

また城山期成同盟会の問題につきましてもは

先ほど協議会の時内容を少し細かくい、過ぎ

たうらみがあります。穂坂さんの都合を伺い

まして近く開催するようになつてい
るまいとお願ひするつもりでござい
ます。

六番（松本藤太郎君）和のいってあることは全然
的はずれの市長さんの今のお答えなんです。
市長さんも早急に今をやるといふ、ますから
この今の中へいろいろ審議されてみて
て初めてそういうことをあつてい、わ
けなんでしょう。事業家にやらせるというこ
とはいつてもいいのです。しかし今の段階に
おいてしかも積立金をさらにふやしていく
という最初の計画に反するといやないで
すか。ですから観念今社にやらせてもいい、
ということは一ツ取り消してくれろ、という
のです。

○市長(田村利男君)先ほど山本議員の質問があり
ましたのでそういう市長に申し込んだことは
今社もあります。まだその段階に至っており
ませんので議会に発表いたしません。
この程度にしておきます。

○九番(志村信作君)この問題はなか／＼あずかりの向
題なんですけれども競輪もだん／＼衰微の状
態になって間敷を減らすとか自然にやめると
かいう状態になっておりますのでたゞ今のと
ころ館山市としては競輪の収入は税外收
入として最も重きものとしてある。大きな收
入ですけれどもだん／＼衰微をするという
ことも考えます。何とか少しづつでも欠うめ
をすするため重税は課せられないとすれば

やはり何とか少くとも税外収入をふやすといふようにございふこと、そういうことを考へますと城山で一定の安い料金ではあるけれども料金をとる、もちろん城を建て、市でそれと管理するからには管理人費も清掃費も入ります、何とか観覧料をとって多少でも税外収入がふえるという線と打つて、せ、ば市で負担してもいい、と思ひます。そういうことを考へて今松本職員のおしやる視光、今社の件と離されてもいい、わけです。始めの市の経営でやるということと打つておるのひです。そうすればあえて差をつかえないと思ひます。そうして市の立場でや、てい、つ、ら、い、と思ひます。

〇三三番（山口幸三君）六番議員のいゝたことも一理
 ありますけれども今それとやら、てお、ては
 なか／＼ケリがつかない。それのう九番議
 員のいゝたそういう具体問題はいろいろも
 だその過程にないと思はるが今どうやっ
 ておるとこれはなか／＼議事が進行しな
 いのうまた時期をみて時がきた時はい
 ろ／＼真剣に検討するところを希望して本
 日は一応腹で飲んでもらって次の議事に
 進行することと希望いたします。

六番（松本藤太郎君）三三番議員のうの発言もある
 ので私もうーへん最後のお尋ねをするが最初
 の通り市でやる。こうあ、しゃいましたから
 そうであるなら最初の言葉を取り消しても

い、わけです。無理なことを私いってるのじゃない。い、てい、はずのことです。それがいえないところというく、政治的なものもあるのです。よう、向いません。向いませんがそのかわり最初の方針通り進め。こういうことでしょう。レ、う、ざいますね。

○市長(田村利男君)将来に問題を残します。

○九番(鴻貫壮作君)予算に閑連しているといえ、ば閑連しています。実は文書を配達する人が町内会あたりでやっているところはどうも、いてい、ると思いがすが、そうでないところ、ちやうどと不合理な点がでます。予算を増額させるのむい、のです。が、職務を忠実に執行してもらいたい、という、ことを申しあげたいのであります。

それは忙しむい時には子供を配達によくすこ
ともあります。子供だから必ずしも悪いと
はい、ませんがなろうことなら本人がくる
べきであらうと私は考えます。

それからもう一つ申し上げますが、国民保険
の切符がきます。切符がきておあいそうお
いとなか／＼もっていくことばかりではあ
りません。が、もっていきます。そうすると督
促手数料もたつた十月です。からど、ちでも
い、よ、うなもんです。けれども取られます。
君等は督促しないです。そういうことをしちや
あ、不合理じゃないか。さういうと督促はし
てあります。さういうのです。督促がして
あつて私の手元に届かないということにな

ると、つまりその配達員がどうかしてしまふ
か何かでなければならぬということになる。
私はだまゝで納めておきますがこういうこと
からきてとかく慣れてくるとずるけやすいもの
のであります。から将来そういうことのない
ようになんぞ注意を願いたいと思います。
答弁はいりますせん。

○議長（萩生田七郎君）お諮り申しあげます。

議案第一二号 本案通り可決するに否異議が
ございますか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

○議長（萩生田七郎君）否異議なしと認めます。

よって議案第一二号 本案通り可決されました。

本日の臨時会は以上をもち、て全部議事を終了いたしました。

これをもって肉会いたします。

午後五時肉会

昭和五十五年二月二十五日

右会議の次第を録しここに署名する。

館山市議会議長 荻生田七郎

同 署名議員

石井孝

同

後援ゆい

